

聴覚障がいについて

また時に、

「ろう者の方々は、ハッキリとした物言いをする」

という評価をされることがあります。

これはアメリカ人の表現を私たちがストレート過ぎると感じるのと同様、言語から派生する文化様式の違いなのです。

聴覚障がいについて

もちろん、皆ではありませんが、曖昧な、または遠まわしな言い方の意味をとらえるのが苦手なため、英語と同じようなはっきり要点を表した言い方になるのです。

聴覚障がいについて

少し話がそれますが、
聞こえない方へ情報を伝える方法の1つに、「要約筆記」という方法があります。

健常者の方がお話しされた言葉を、要約して紙やパソコンで書いて伝えるという方法です。

聴覚障がいについて

要約筆記による情報の保障の場合、複数の方が続けて発言されたとしても、「文字」だけですので、どなたの発言が分かりません。

要約筆記を書く方も、声の違いを聞き逃してしまうこともあるそうです。

聴覚障がいについて

そこで、発言の前には自分の名前を「〇〇です」と述べてから、発言することが必要です。

簡単な心遣いですが、知らないだけで、「失礼だ」と思われてしまうかもしれません。

聴覚障がいについて

他にも、文章だけで伝えるのですから、抑揚を付けることも難しいです。

そのため、

「行かないこともない」

といった二重表現は、聴覚障がい者にとっては分かりにくい表現です。

聴覚障がいについて

例えば、ある方が、医師に自分は癌かと聞いたところ

「**癌とは言い切れない**」（癌かどうか、分からない）

と紙に書かれたそうです。

それを自分の病気は

「**癌と言う病名であり、切れない(手術できない)**」と勘違いし、

自分は死んでしまうのとか、と思った。

というエピソードがあります。

聴覚障がいについて

筆談の場合は、曖昧な表現ではなく、簡潔に伝える配慮が必要になります。

言葉や情報のサポート方法によって、文化が変わってくるということをご理解いただければと思います。

他にも、聴覚障がい者の「言葉の獲得」に関しては、十分に検討する必要があります。

「日本語」と「日本手話」の2つの言語を獲得しなければならない、ということに加え、聞こえないと言葉の獲得自体にも、苦勞が伴います。

聴覚障がいについて

例えば、小さな子どもにりんごを見せて「りんご」と教えれば、子どもは「りんご」という単語を覚えていきます。

しかし、聞こえないと、「りんご」と言葉で教えることもできません。

また、聞こえる方は、文字と音の2つで、言葉を覚えていきます。聴覚障がい者にはそれができません。

教え方にも工夫と、時間をかける必要があります。

聴覚障がいについて

ここまで、「口話法」「日本手話」「要約筆記」など、コミュニケーションの方法や、情報のサポートの方法について簡単に触れてまいりました。

「手話言語条例」を検討いただくことは大変にありがたいのですが、「手話」にとどまらず、幅広く障がいがお有りの方を、対象に検討いただければと思います。

例えば、兵庫県明石市は「手話言語条例」ではなく、

「手話言語・障害者コミュニケーション条例」

を制定し、手話意外をも、対象にしております。

聴覚障がいについて

手話だけではなく、耳が不自由な、視覚障がいがお有りの方に対しての「点字」や「音訳」も対象になっています。

さらに、知的障がいがお有りの方などへの、情報の保障も検討されています。

聴覚障がいについて

ぜひ、このような形の条例が普及することを願っております。

聴覚障がいについて

話を少し戻して、私自身の体験ですが・・・

聴覚障がいについて

「耳が聞こえない」とよく聞かれる質問としては、「朝どうやって起きるの?」というものがあります。

朝は、いまは携帯電話のバイブで起きています。
昔は、振動する腕時計などもありました。
中には、タイマー付き扇風機で起きている方もいます。

聴覚障がいについて

生活で困ることは、たくさんありますが、
代表的なものは、

- 電話ができない
- 満員電車に乗れない
→ 車内掲示板が見れないと今いる駅が分からない
- 災害時の緊急アナウンスが聞こえない

などが不安です。

聴覚障がいについて

障がいを持っている当事者からすると、当たり前のことばかりですが、それでも、健常者の方は

「言われてみなければ、困っていることに気づかなかった」

ということがたくさんあるでしょう。

聴覚障がいについて

いまの時期は大丈夫ですが、春になると、花粉症でマスクをされる方が増えます。

私は、口元を見て会話を読み取りますので、花粉症の季節は、とても苦労します。

また、手話を使ってお話しされる方は、手に荷物を持っていると会話ができません。

このようなことも、初めて考える方が多いのではないのでしょうか。

聴覚障がいについて

特に、聴覚障がい者の場合は、補聴器を付けていないと、健常者と同じように見えますので、

「困っていることに気付けない」

こともあるようです。

ぜひ、当事者からのヒアリングを大切にして欲しいと思います。

聴覚障がいについて

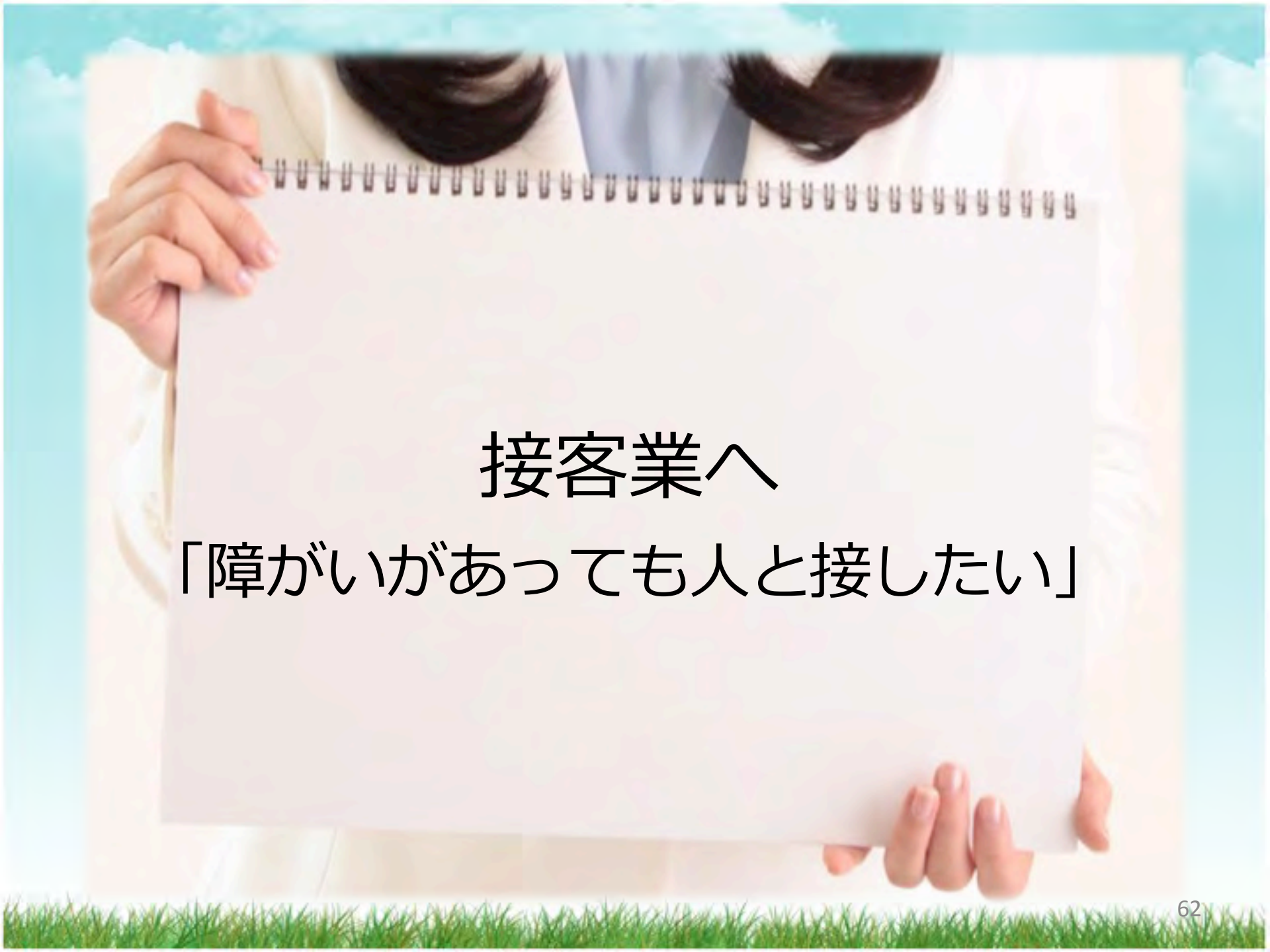
これは、私の自治体の例なのですが、区役所の施設で、夜間に一部、電話でしか、受付ができない場所がありました。

区役所の方も、障がいがお有りの方からの連絡を想定し、様々なサポートを行なっておりましたが、たまたま「想定から漏れてしまった」ようです。

聴覚障がいについて

このように、悪気がなくとも、当事者ではないと気付けないこともあります。

ぜひ、当事者からのヒアリングを大切にしてください。

A person wearing a white lab coat is holding a spiral-bound notebook. The notebook is open to a blank page with Japanese text written on it. The background is a bright blue sky with white clouds, and there is a strip of green grass at the bottom of the image.

接客業へ

「障がいがあっても人と接したい」

接客業へ「障がいがあっても人と接したい」

中学校・高校と進むと、面倒見の良い小学校のお友達と離れることが淋しく、また新たな環境になじめるか不安もありました。

中学校も高校も、ろう学校ではない学校に進みましたので、聴覚障がいを持っている学生は私だけでした。



接客業へ「障がいがあっても人と接したい」

おそらく、ほとんどのクラスメートも、聴覚障がい者と会うのは初めてだったのでしょう。

私もそうですが、クラスメートも、どう接していいのか悩み、神経過敏になり、話しかける勇気が沸かないこともありました。

初対面の方ですと、挨拶はできても、自分からはなかなか話しかけられなかったものです。

接客業へ「障がいがあっても人と接したい」

しかし、「おはよう」といった簡単な会話をするだけで、急に仲良くなり、優しくしてくださるようになりました。

ほとんどの方は、「障がい者を差別」はしておらず、それまで接したことがないので、「**どうしていいのかわからない**」と思い、そのため、対応が差別的に見えてしまうのでしょうか。

接客業へ「障がいがあっても人と接したい」

そのため、幼いうちから、障がいがお有りの方と、直接会って交流する機会を作るだけで、精神面でのバリアフリーがずっと進むと思います。

そういった機会も、大切にしていただければと思います。

接客業へ「障がいがあっても人と接したい」

実際に、これまでの定例議会では、
「福祉作業所」と隣接する「小・中学校」の間での、
交流会の提案をしてまいりました。

定期的な交流は、職員や教員への負担になるでしょう
から、難しいかもしれません。

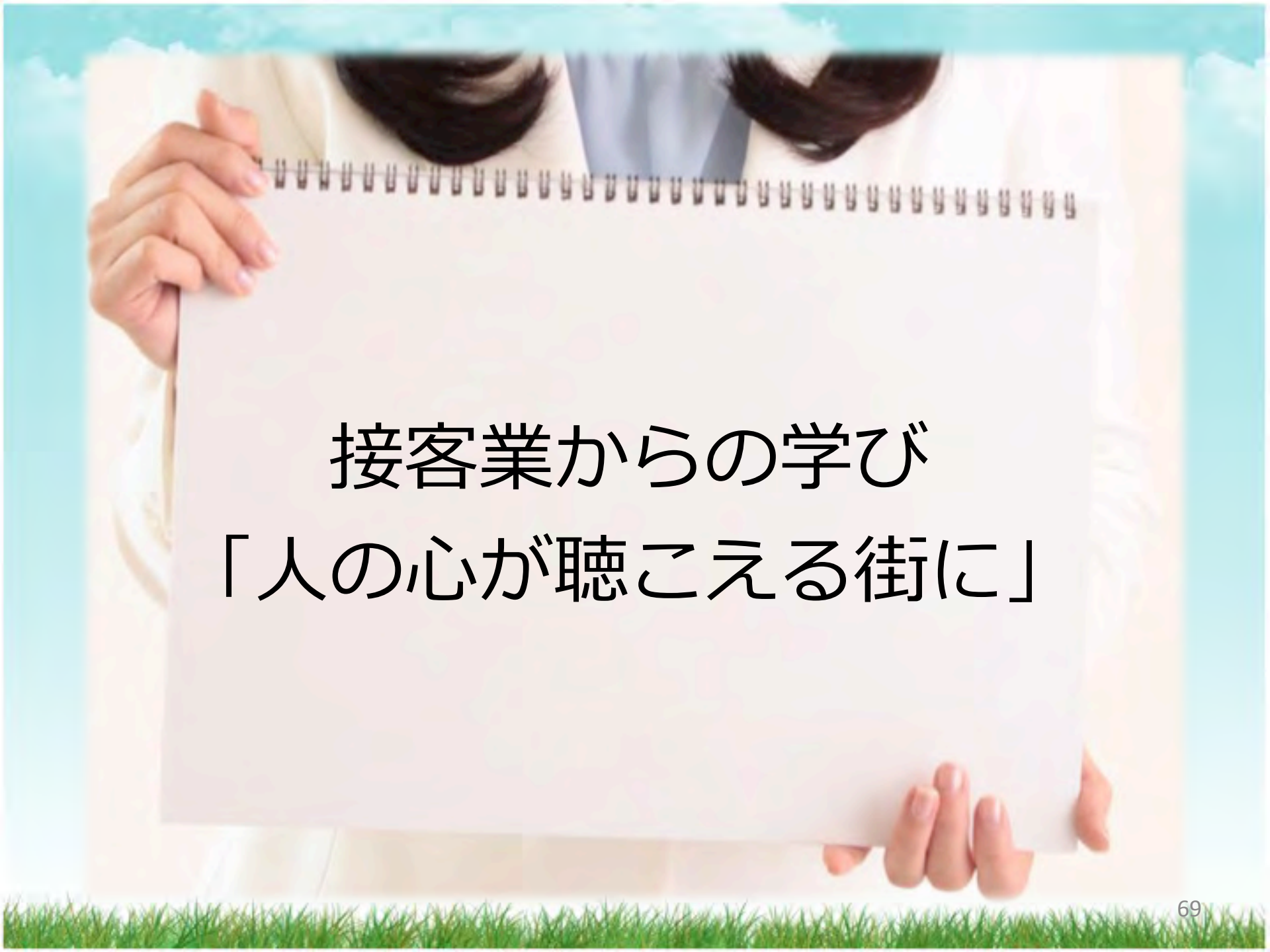
接客業へ「障がいがあっても人と接したい」

ですが、文化祭などの際に、

- 福祉作業所で作った製品を展示する
- 小・中学生の絵や作文と一緒に展示する

といったことからでも、交流の機会は作ることができます。

今後、北区でぜひ実現させたいことの1つです。

A person with dark hair, wearing a white shirt and a blue tie, is holding a spiral-bound notebook. The notebook is open to a blank page with Japanese text. The background is a light blue sky with white clouds, and there is a strip of green grass at the bottom of the image.

接客業からの学び
「人の心が聴こえる街に」

接客業からの学び「人の心が聴こえる街に」



その後、いくつかの接客業を経験し、ご縁があって銀座でホステスを勤めさせていただきました。

銀座のクラブは、お客様がお話しに来られる場所です。

ですので、耳が聞こえず、会話が不自由だと「無理だ」と言われることもありました。

接客業からの学び「人の心が聴こえる街に」

しかし、同じお店のスタッフや、お客様の理解と、温かい応援のおかげで、壁を感じることなく、乗り越えていくことができました。

私は「筆談」で会話をすることが多いのですが、かえって筆談の方が、普段言いにくいことも言えるお客様もいらっしゃるようでした。



接客業からの学び「人の心が聴こえる街に」

「人の心が聴こえる街に」

この言葉は、
政治家としての私のキャッチフレーズです。

選挙の時に、ボランティアスタッフ皆様と一緒に、
一生懸命考えた言葉です。

接客業からの学び「人の心が聴こえる街に」

実はこの言葉も、ホステス時代にあるお客様とお話したときに、出会った言葉なのです。

接客業からの学び「人の心が聴こえる街に」

私は耳が聞こえず、相手の方がお話しされる言葉全てを理解出来ない時もあります。

そのため、常に

「どんなことを言っているのだろうか？」

「どんなお気持ちなのだろうか？」

と、

言葉以外の部分を読み取ろうと努めてまいりました。

接客業からの学び「人の心が聴こえる街に」

耳が聞こえないからこそ、学べることもあります。

自分で言うことではないのですが、これは私の特技だと思っています。

障がいはマイナスに見えるでしょうが、私にとっては個性であり、強みです。